2023 年度グラデュエーションペーパー

予稿

題　　目	
園児・保育者・保護者間のコミュニケーションを活性化させる「絵本の使い方」の研究	
技術経営論文	ビジネス企画提案

学籍番号	8822203	氏名	伊藤　健

教　員	
主査	加藤　晃　教授
担当審査委員	

東京理科大学大学院　経営学研究科　技術経営専攻

目次

第 1 章　はじめに 4
1.1　研究の背景 4
1.2　研究の意義 4
1.3　本研究で取り上げる絵本について 5
1.4　Gakken における幼保園向け絵本発行の歴史 7
1.5　幼保園市場における、月刊絵本の推定市場規模 11
1.6　幼稚園、保育所、認定こども園の現状 12
1.7　日本の幼児教育における質評価スケールにおける絵本の位置付け 13
1.8　諸外国の幼児教育の質評価と絵本の使われ方について 17
第 2 章　先行研究 19
2.1　就学前教育の投資効果 19
2.2　幼稚園・保育所における絵本の位置付け 21
2.3　集団における読み聞かせに関する研究 22
2.4　幼児期の体験による投資効果 23
2.5　保育者の絵本読み聞かせに対する意識 23
第 3 章　幼保園での絵本活用事例 25
3.1　幼保園での絵本活用事例の観察 25
3.1.1　事例 1　A保育園での活用 25
3.1.2　事例 2　B保育園での月刊絵本活用と展開 26
第 4 章　研究方法 28
4.1　本研究における仮説 28
4.2　研究 1　録画による観察 28
4.2.1　調査手法 28
4.2.2　調査結果 29
4.3　研究 2　幼保園と保護者間のコミュニケーションにおける絵本の分析 32
4.3.1　調査手法と分析結果 32
4.3.2　絵本配信高頻度園についての分析 39
4.3.3　絵本配信高頻度園の品詞別分析 42
4.3.4　絵本配信高頻度園の月別品詞の経時変化分析 47
4.3.5　分析結果 50
4.4　月刊絵本について保育者インタビューと保護者の声 51
第 5 章　まとめと考察 54
5.1　研究のまとめ 54
5.2　本研究の限界と今後の課題 57
謝辞 58
付録 58
引用文献 60

第 1 章　はじめに

1.1　研究の背景

幼保園市場で生活習慣や文字や習得するために教科書のように扱われる絵本が保育者や子どもにとってどのような価値を生み出しているのか、保育者や子どもの行動の変化について考察を行う。

1.2　研究の意義

本研究意義の第一として、幼保園市場において絵本の使い方に関する研究は保育の質向上につながり、社会全体への投資効果が期待できる。

第二としては月刊絵本が日本独自の幼児教育文化である点である。

1.3　本研究で取り上げる絵本について

幼保園で扱われる絵本は月刊保育絵本と呼ばれる。400 円から 600 円程度の低価格で提供されており、子どもたちに 1 人 1 冊ずつ毎月配られるのが月刊保育絵本の特徴のひとつである。

1.4　Gakken における幼保園向け絵本発行の歴史

株式会社 Gakken では月刊絵本を発行して 70 年以上の歴史になる。

1952 年、「よいこのくに」を創刊した。判型は既刊のものとは違う大きさの B5 判とした。幼児の視覚視野で最適な大きさという裏づけに基づき決定した。

内容は、幼稚園教育要領に準拠した自然観察、社会観察、音楽リズム、知恵遊び、お話の 5 ブロックに分けた幼児の総合雑誌であった。

	特集	科学	気持ち	生活	お話	文字	数	行事
4月	春の草花	色（透明白シート＆お面）	年下の子に邪魔されたとき	片付け	ケーキ屋さん	し・つ・く・へ・い	4 までの数	こどもの日
5月	動物園	飛ぶ（くるくるフリスビー）	年下の子に頼られたとき	交通安全	頭音遊び	り・こ・て・さ・き	5 までの数	梅雨
6月	体	紙（ジャンプの紙）	注目されたとき	食事	なぞなぞ	に・た・う・ら・ひ	6 までの数	七夕
7月	スイカ農家	光（分光シート）	順番ぬかしされたとき	着替え	落語	け・か・や・の・ゆ	7 までの数	海の日 山の日
8月	海	水（ユポ紙：水に浮く）	泣いている子を見たとき	暑い日の過ごし方	バナナの旅	あ・お・ん・え・ま	8 までの数	防災の日
9月	自転車ができるまで	影（組み立て影シート）	負けたとき	防災	生き物	よ・と・も・す・み	9 までの数	十五夜

図 1　5 歳児向け月刊保育絵本「はっけん」2023 年度年間企画スケジュールより

1.5　幼保園市場における、月刊絵本の推定市場規模

幼保園市場では、53 種類の月刊絵本が供給されており発行部数は 2021 年度 176 万部で減少している。

推定市場規模として年間 75 億円の規模であると推定される。

1.6　幼稚園、保育所、認定こども園の現状

2021 年の各幼保園数、在席園児数、保育者数を図 2 にまとめる。

年度	種別	幼稚園	幼保連携型認定こども園	保育所
平成 28 年 2016 年	園数	11,252	2,785	22,174
	在席園児数	1,339,761	397,587	2,081,335
	保育者数	99,957	57,118	477,050
令和 3 年 2021 年	園数	9,418	6,093	23,884
	在席園児数	1,008,815	786,429	1,992,095
	保育者数	90,140	129,100	521,601

図 2　幼稚園・保育所・認定こども園数、在席園児数、保育者数（政府統計より筆者作成　保育所型認定こども園は保育所に含む）

1.7　日本の幼児教育における質評価スケールにおける絵本の位置付け

保育（幼児教育）の量から質への転換が必要とされる。質の測定についてはまだ明確な指標が存在していない。

幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究［国立教育政策研究所, 2023］[i]で質評価を試みている。7 段階評価での調査結果が図 3 である。「絵本に関わる項目」に改善の余地があることが確認できた。

サブスケール	項目番号	項目名	N	中央値	平均	SD
空間と家具	1	室内空間	21	7	6.14	1.86
	2	養護・遊び・学びのための家具	21	4	3.05	1.21
	3	遊びと学びのための室内構成	21	2	2.10	1.11
	4	ひとりまたはふたりのための空間	21	3	3.19	1.05
	5	子どもに関係する展示	21	1	2.38	1.56
	6	粗大運動遊びの空間	21	7	5.81	2.15
	7	粗大運動遊びの設備・用具	21	6	5.00	2.51
養護	8	食事/間食	6	6.5	5.83	1.77
	9	排泄	21	7	5.43	2.17
	10	保健衛生	21	6	5.95	1.50
	11	安全	21	6	5.00	1.88
言葉と文字	12	語彙の拡大	21	3	2.86	1.49
	13	話し言葉の促進	21	4	4.14	1.32
	14	保育者による絵本の使用	21	1	2.48	2.08
	15	絵本に親しむ環境	21	3	3.10	1.27
	16	印刷（書かれた）文字に親しむ環境	21	2	1.71	0.55
活動	17	微細運動（手や指を使う）	21	2	2.24	1.23
	18	造形	21	4	3.62	1.09
	19	音楽リズム	21	2	2.81	1.26
	20	積み木	21	1	1.33	0.78
	21	ごっこ遊び	21	3	3.29	1.16
	22	自然/科学	21	2	2.43	1.18
	23	遊びのなかの算数	21	1	1.05	0.21
	24	日常生活のなかの算数	21	2	2.33	1.08
	25	数字の経験	21	1	1.14	0.35
相互関係	28	粗大運動の見守り	19	4	4.00	2.10
	29	個別的な指導と学び	21	4	4.95	1.81
	30	保育者と子どものやりとり	21	6	5.29	1.67
	31	子ども同士のやりとり	21	5	4.62	1.53
	32	望ましい態度・習慣の育成	21	6	5.19	1.50
保育の構造	33	移行時間と待ち時間	21	6	5.10	1.92
	34	自由遊び	21	4	3.81	1.37
	35	遊びと学びのクラス集団活動	20	5	4.90	1.37

図 3　項目別スコア一覧。出所：幼児期の育ち学びのプロセスの質に関する研究より

1.8　諸外国の幼児教育の質評価と絵本の使われ方について

OECD の幼児教育の質評価に関する報告書において幼児教育の質評価に関わる課題としては、質の定義が難しいことや画一的評価の確立が難しいことがあげられている。

第 2 章　先行研究

2.1　就学前教育の投資効果

就学前教育の投資効果についてはヘックマンの研究が広く知られている。ペリー就学前プロジェクトの教育的効果については図 4 に示す。

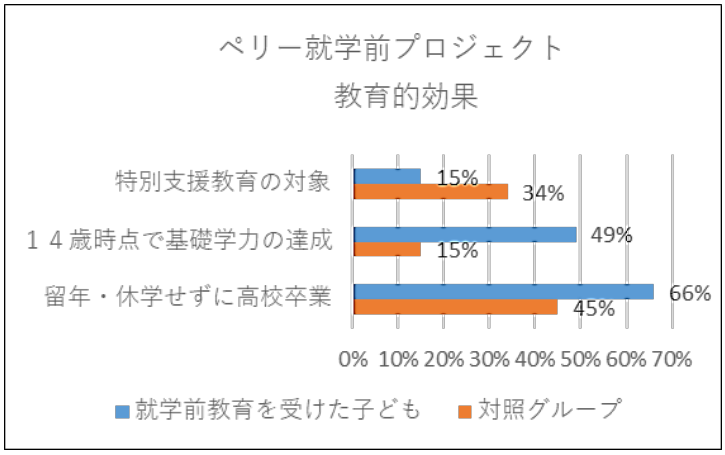


図 4　出所：Heckman,2015

結果の一つ目は就学前教育が人生に大きな影響を与えること。二つ目に非認知能力も重要ということである［Heckman，2015］[ii]。

藤澤・中室（2017）は、保育士歴の長さが子どもの発育状況と有意な正の関連があることを明らかにした。［藤澤啓子、中室牧子，2017］[iii]

2.2　幼稚園・保育所における絵本の位置付け

杉山（2022）は、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説に絵本という言葉の記載が見られ、言葉の獲得に関する領域、言葉による伝え合いにおいて最も多く現出していることを報告。［杉山喜美恵，2022］[iv]

2.3　集団における読み聞かせに関する研究

高橋・徳渕（1994）は、集団での読み聞かせ場面における幼児同士の相互作用を明らかにするため年齢別の比較検討をした。5 歳児では、「発展型発話」が顕著に増大した。（図 5）。［高橋登、徳渕美紀，1994］[v]

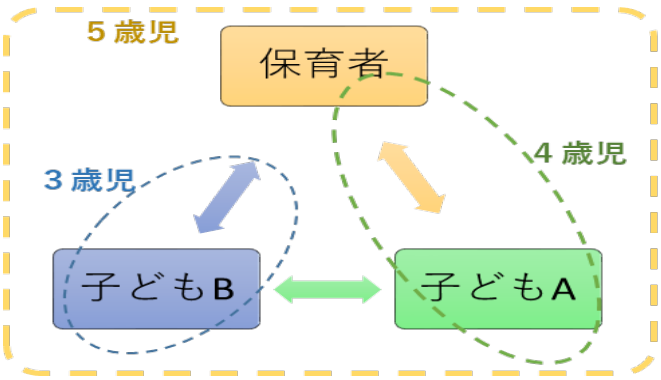


図 5　出所：高橋・徳渕（1994）を基に筆者作成

2.4　幼児期の体験による投資効果

中室（2023）は、体験への投資も子どもたちの学力や非認知能力を高めると指摘。［教育新聞，2023］[vi]

2.5　保育者の絵本読み聞かせに対する意識

仲本（2015）によると、保育者は絵本を読みあう活動中の子どもの様子・感情や行動を読み取り、支援をしている。活動後には、絵本と日常生活をつなげることを意識や配慮していると述べた。［仲本美央，2015］[vii]

第 3 章　幼保園での絵本活用事例

3.1　幼保園での絵本活用事例の観察

3.1.1　事例 1　A保育園での活用

月刊絵本のお話しを集団で読んだあと、野菜をたらいで洗っているときに子どもの中から「絵本みたいに野菜がお風呂に入っているね」という絵本と結び付けた発言を観察。

3.1.2　事例 2　B保育園での月刊絵本活用と展開

科学コーナーの事例である。身近なものの浮き沈みを調べる内容で実験を繰り返していた。

更に園内プールを水槽と見立てて子ども自身が浮き沈み実験をしていた。

実験結果を文字で書いて張り出していた。（図 6　浮かぶ・沈むなど 4 分類の実験結果）

これらの保育活動の展開を保護者に伝えていた。

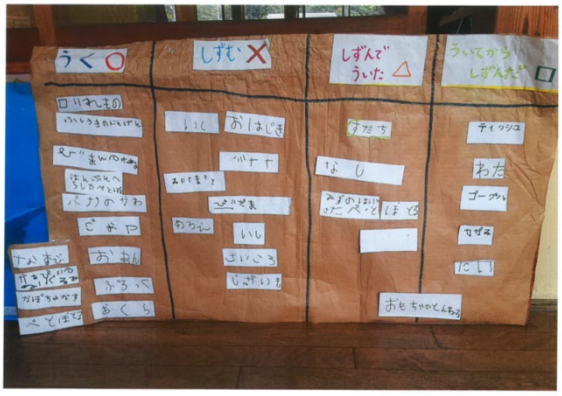


図 6　浮かぶ・沈むなど 4 分類の実験結果

第 4 章　研究方法

4.1　本研究における仮説

本研究では幼保園における「絵本の使い方」により生み出す子ども同士の会話や行動変容を調査し、絵本に関する実体験活動を行うことで子ども同士のコミュニケーションが活性化することを仮説とする。

4.2　研究 1　録画による観察

5 歳児を対象として調査を行う。個々の子どもが提示された絵本内容に対してどのように取り組むのかを調査する。データ収集方法として録画による行動観察を行う。視線や動きを画像解析して数値化する。

4.2.1　調査手法

対象年齢：年長 5 歳児

人数：7 名

4.2.2　調査結果

視線、顔の向き、体の位置、手の動きを数値化して測定した。

図 7　視線の推移は撮影中の視線の推移をグラフにしたものである。「普段のように」録画することの難しさがあった。

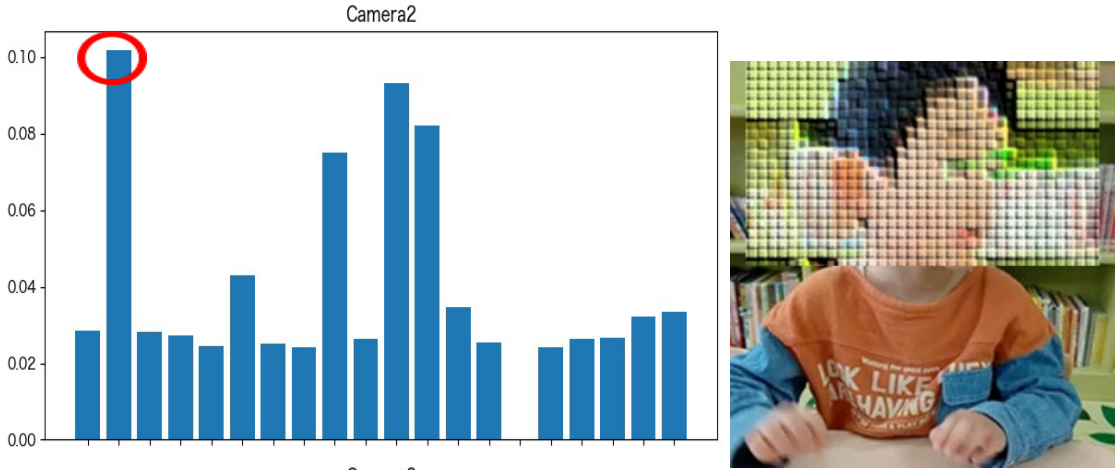
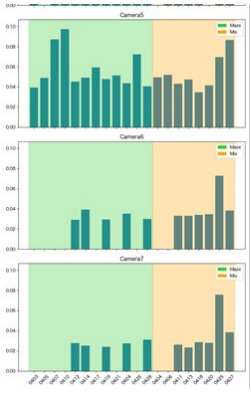
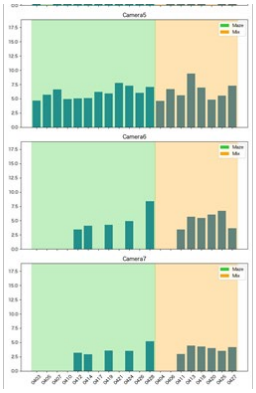
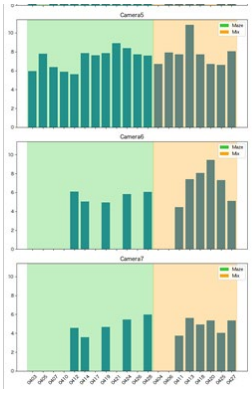


図 7　視線の推移







Participan	Day	Value
Camera1	403	0.028072
Camera1	404	0.024495
Camera1	405	0.022085
Camera1	406	0.028403
Camera1	407	0.025664
Camera1	410	0.019318
Camera1	411	0.021809
Camera1	412	0.022152
Camera1	413	0.022573
Camera1	414	0.024384

図 8　視線　　手の動き　　体の動き　　図 9　凝視時間

図８は、視線、手の動き、体の動きをグラフで表したもので、絵本を見ていた時間が数値の図 9 である。現在の尺度では特徴的なものは見いだせなかった。

絵本に取り組んでいる時間が図 10　　絵本への取組時間である。

1 番	始まり	終わり	取り組み時間	平均
①月	0:05:08	0:17:32	0:12:24	
①火	0:00:25	0:15:48	0:15:23	
①水	0:00:11	0:06:40	0:06:29	0:12:38
①木	0:02:34	0:17:30	0:14:56	
①金	0:00:49	0:14:45	0:13:56	
②月	0:00:30	0:22:14	0:21:44	
②火	00:00:47	0:29:43	0:28:56	
②水	0:00:48	0:22:40	0:21:52	0:21:17
②木	0:00:25	0:16:58	0:16:33	
②金	0:00:00	0:17:20	0:17:20	
③月	0:01:59	0:14:30	0:12:31	
③火	0:00:32	0:26:08	0:25:36	
③水	0:02:02	0:19:02	0:17:00	0:18:34
③木	0:01:16	0:29:11	0:27:55	
③金	0:01:15	0:11:01	0:09:46	
④月	0:01:08	0:12:42	0:11:34	
④火	0:02:00	0:29:35	0:27:35	
④水	0:00:58	0:22:24	0:21:26	0:21:02
④木	0:01:46	0:25:44	0:23:58	
④金	0:00:28	0:21:05	0:20:37	

図 10　　絵本への取組時間（被験者 1）

取組時間の 1 週間平均の推移を現したのが図 11　　取組時間の 1 週間平均の推移である。集中して作業していることで時間が短くなった子どもが 3 名いた。

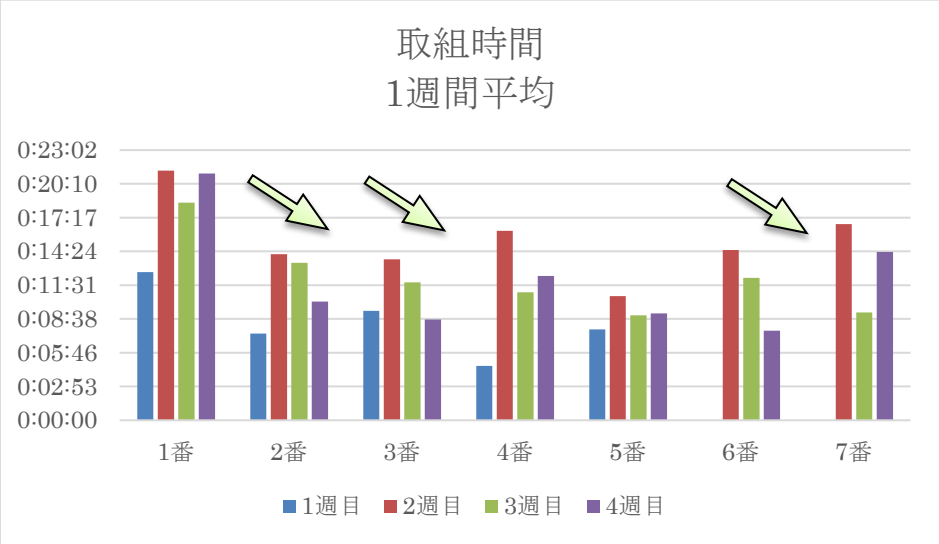


図 11　　取組時間の 1 週間平均の推移

4.3　研究２　幼保園と保護者間のコミュニケーションにおける絵本の分析

4.3.1　調査手法と分析結果

保育者が保護者に発信した連絡内容を用いて絵本を活用している園と活用していない園での言葉の違いをテキストマイニング分析により調査を行った。

・調査期間　　2022 年 10 月 1 日から 2023 年 9 月 30 日
・調査園数　　1,156 園
・調査データ　hugmo（ハグモー）で保護者に配信された 39 万 4057 件の連絡
・調査方法　　KH Coder3（樋口,2023）を用いてテキストマイニング分析

図　12　　hugmo での配信件数は hugmo（ハグモー）での配信件数と配信園数である。

	全体	絵本配信有り	占有率	絵本配信無し	占有率
配信件数	394,057	327,633	83.1%	66,424	16.9%
園数	1,156	529	45.8%	627	54.2%
絵本含む配信	14,929	14,929	3.8%	0	-

図 12　hugmo での配信件数

絵本の配信が有る園は保護者へ熱心に子どもの様子を伝えていることが分かった。

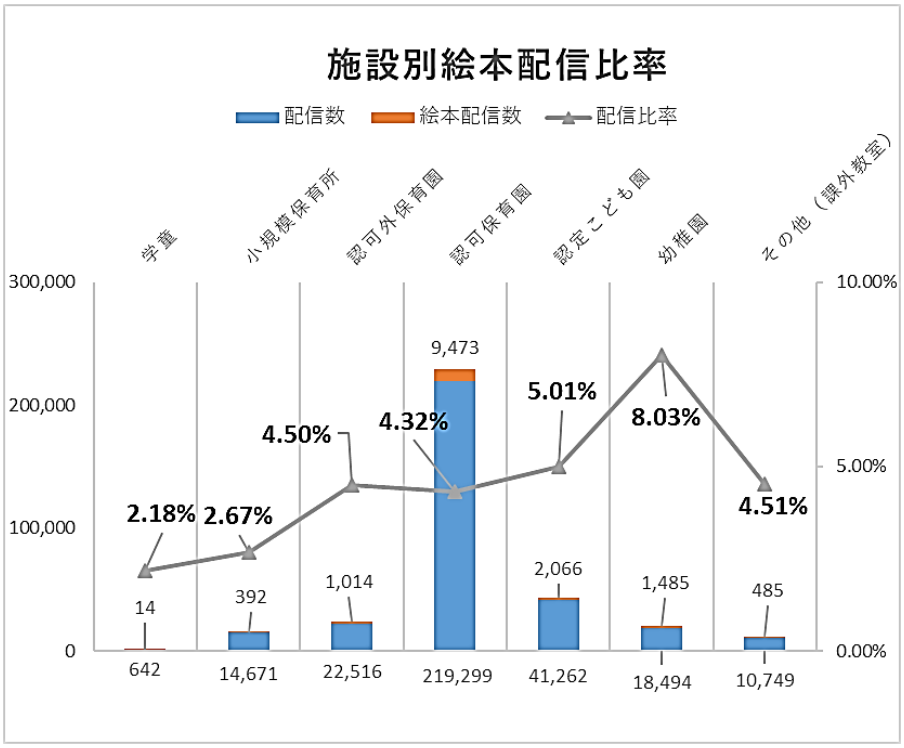


図 13　施設種類別絵本配信比率

図 13　施設種類別絵本配信比率は絵本配信を施設種類別に調べた結果である。幼稚園が絵本を含む配信比率が高い。

次に「遊び」に関わる名詞を配信月別に集計。結果を図 14 に示す。

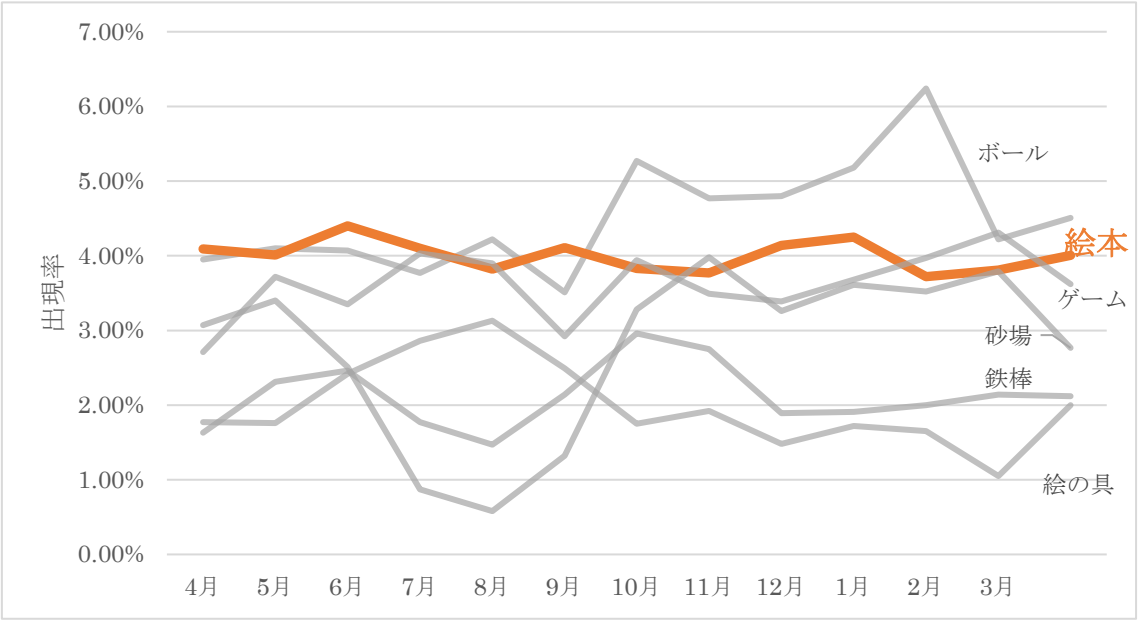


図 14　配信月別遊びに関わる名詞出現回数

4.3.2　絵本配信高頻度園についての分析

絵本配信頻度が高い上位 10 園を抽出して分析した。図　15　絵本配信無し園の共起ネットワーク図で、図 16　絵本配信高頻度園の共起ネットワーク図である。

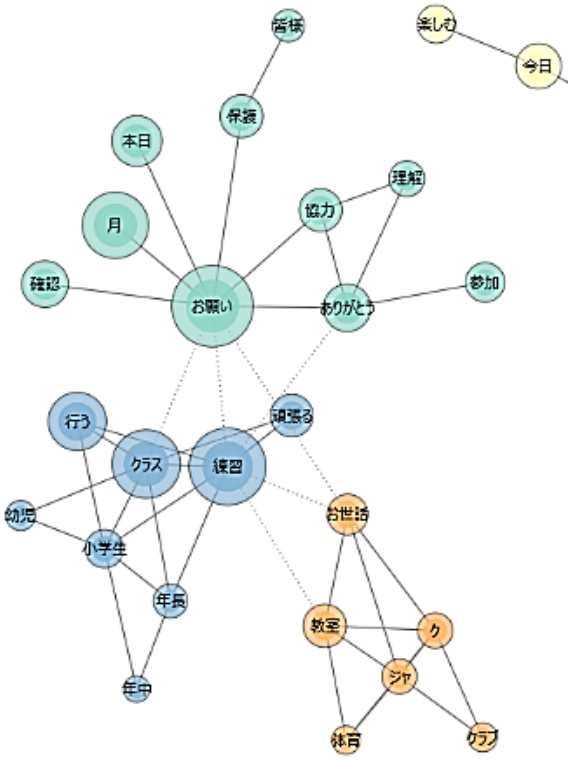


図　15　絵本配信無し園の共起ネットワーク図

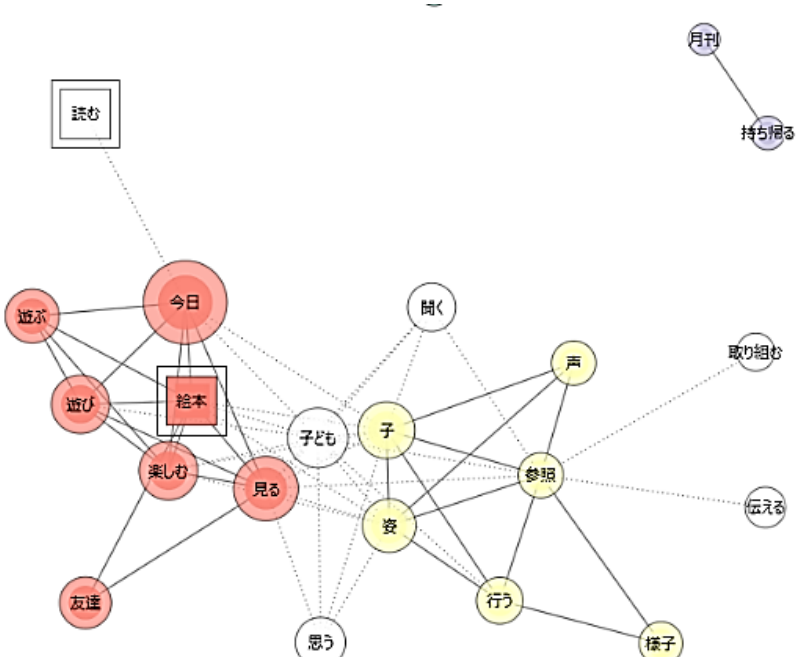


図 16　絵本配信高頻度園の共起ネットワーク図

4.3.3　絵本配信高頻度園の品詞別分析

使用する単語にも違いが表れるのではないかと考え、品詞別に調査した。

絵本配信高頻度園		絵本未配信園	
名詞全体	264,922	名詞全体	718,190
子ども	11,436	クラス	31,209
遊び	8,529	教室	11,964
友達	6,929	子ども	11,617
様子	4,311	写真	11,243
自分	4,133	小学生	9,380
写真	3,599	ボール	8,365
絵本	2,873	ジャ	7,749
先生	2,767	年長	7,327
最後	2,504	皆様	6,520
友だち	2,352	マット	6,289

図 17　名詞の比較

名詞について比べたものが図 17　名詞の比較である。

絵本高頻度配信園		絵本未配信園	
形容動詞	23,872	形容動詞	64,017
好き	2373	元気	5112
元気	2191	詳細	3450
上手	1606	大変	2921
自由	999	柔軟	2612
様々	887	上手	2419
大好き	794	可能	2378
綺麗	737	安全	2005
素敵	697	必要	1963
大切	668	不明	1785
色々	614	好き	1493

図 18　形容動詞の比較

次に形容動詞で同様に比較をした（図 18　形容動詞の比較)。

絵本高頻度配信園では「好き・自由・様々」という単語が上位に出てきている。

絵本未配信園では「詳細」という単語が特徴である。保護者への伝達事項が多く、「詳細はこちら」という文章が多い。

4.3.4　絵本配信高頻度園の月別品詞の経時変化分析

次に単語の経時変化を調査した。第 3、第 4 四半期に出現率の高い単語を抽出した。

図 19 は形容詞、図 20 は動詞、図 21 は形容動詞についての結果である。

形容詞	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
多い	5.7%	5.4%	6.8%	6.5%
暖かい	0.5%	0.1%	0.6%	1.8%
寒い	0.3%	0.3%	3.3%	2.7%
頼もしい	0.4%	0.5%	0.6%	0.8%
怖い	0.9%	1.0%	1.4%	1.5%
温かい	0.4%	0.4%	0.6%	0.8%
広い	0.4%	0.4%	0.4%	1.1%
細い	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%
細かい	0.3%	0.6%	0.6%	0.8%

図 19　絵本配信高頻度園の月別経時変化　形容詞

動詞	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
見る	4.8%	4.9%	4.9%	5.1%
作る	2.0%	2.0%	2.2%	2.1%
行う	1.7%	2.6%	2.7%	2.8%
伝える	1.4%	1.3%	1.7%	1.7%
話す	1.1%	1.2%	1.2%	1.3%
頑張る	0.7%	0.9%	1.0%	1.1%
取り組む	1.0%	1.1%	1.6%	1.6%
考える	1.0%	0.9%	1.0%	1.1%
感じる	0.7%	0.9%	0.8%	1.2%

図 20　絵本配信高頻度園の月別経時変化　動詞

形容動詞	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
元気	8.8%	8.3%	9.3%	10.3%
様々	3.2%	3.5%	4.5%	3.5%
素敵	2.1%	1.8%	3.5%	3.8%
静か	1.3%	1.4%	1.5%	1.7%
大丈夫	0.9%	0.8%	1.0%	1.9%
いろいろ	0.9%	0.7%	1.2%	1.3%
年少	0.4%	0.2%	0.7%	0.8%
同様	0.3%	0.5%	0.6%	0.9%
幸せ	0.2%	0.1%	0.5%	0.6%
真っ白	0.0%	0.1%	0.3%	0.3%
重要	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%
前向き	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%

図 21　絵本配信高頻度園の月別経時変化　形容動詞

伝える、取り組む、素敵、大丈夫という単語が下半期に使用頻度が高くなることが分かった。子ども同士の動きを注視していることが分かる。

4.3.5　分析結果

絵本を使っている園では、子どもの達成感や満足感を嬉しい様子として保護者に伝えている。子どもに実体験を通して自分の経験とさせていた。

4.4　月刊絵本について保育者インタビューと保護者の声

保育者へのインタビューと保護者の感想から、幼保園で楽しく遊んだ「月刊絵本を持ち帰ること」により家庭でのコミュニケーションが活性化していることが読み取れた。紙絵本の利点でもある。

これは質の評価スケールでも論じられていない新たな発見である。

第 5 章　まとめと考察

5.1　研究のまとめ

研究結果から月刊絵本により「子どもと子ども（友達）」「子どもと保育者」「保育者と保護者」「保護者と子ども」という 4 つのステークホルダーを巻き込み、コミュニケーションを活性化させていることが分かった。

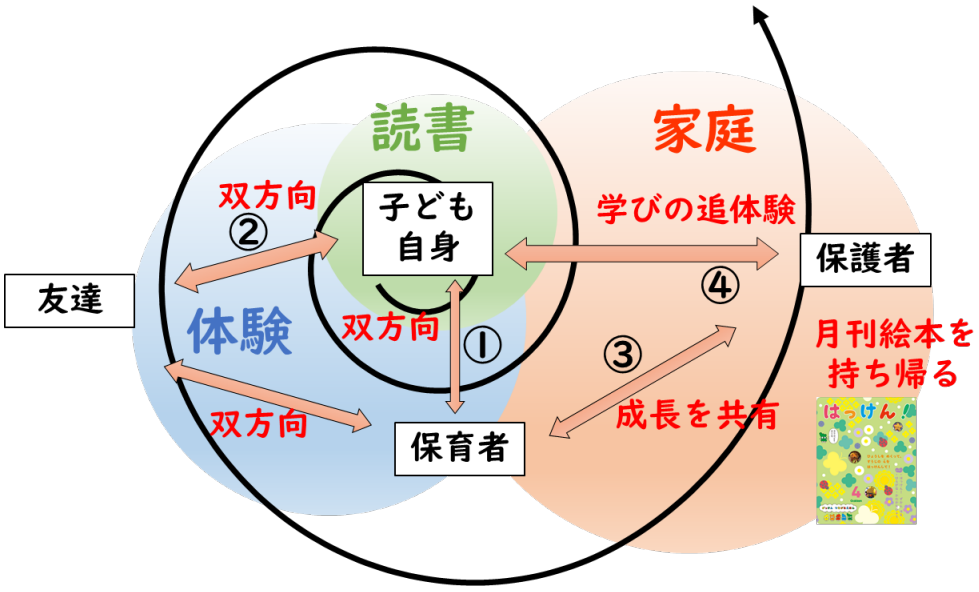


図 22　月刊絵本による学びのスパイラル構造　平面図（筆者作成）

「月刊絵本による学びのスパイラル構造」と言える発見である。図 22 は、幼児期の子どもの育ちを考える上で、子ども自身、友達との体験活動、保育者、保護者の視点を持つことが大切で、月刊絵本による学びが幼保園内に留まらず、家庭にもつながっていることを示している。

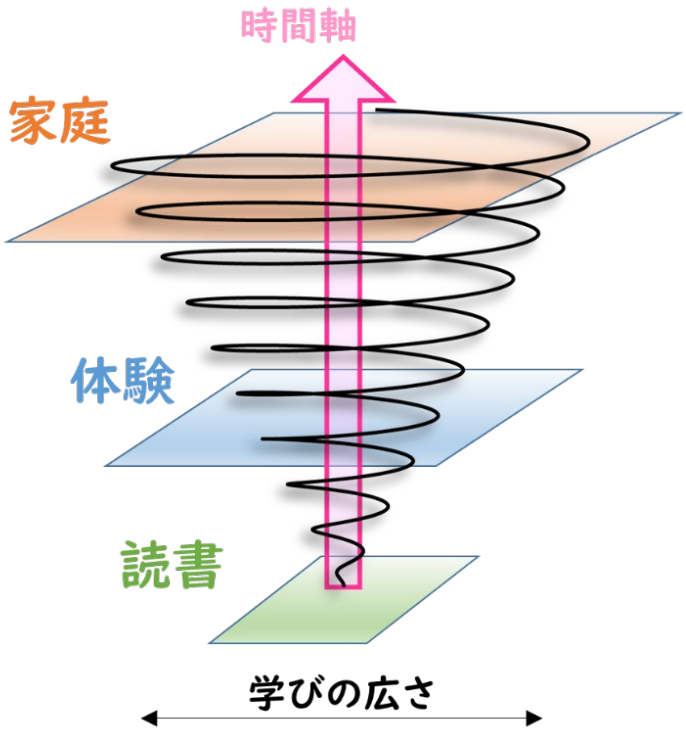


図 23　　月刊絵本による学びスパイラル構造　立面図（筆者作成）

図 23 はステージが変わるたびに学びの幅が広がり、時間軸も長くなっていること、さらに繰り返す学びであることを示している。

学術的な貢献は４点ある。第一に、月刊絵本による学びは４者によるスパイラル構造になっていることを発見した。

2 点目は、幼児教育分野では初めての連絡アプリ内の発信内容を調査対象としたこと。結果として絵本を活用している園の特徴があることを発見できた。

3 点目としては実体験をともなう活動は学びの幅を広げることにつながるという示唆。

４点目としては保護者の育児放棄低減、保育者の離職率低減に貢献する可能性がある。

5.2　本研究の限界と今後の課題

本研究では幼保園での絵本に関わる活動に限定して論じている。本研究における限界は６点考えられる。第一は絵本以外に起因する要因。第二として絵本のコンテンツによる影響の違い。第三として保育者の経験年数の違い。第四として発達の連続性。第五として家庭環境による要因。第六として学齢による絵本の有効性の違いである。

今後の研究課題としては、「月刊絵本による学びのスパイラル構造」が非認知能力の向上にどのように寄与しているかを明らかにしていくことである。

---

[i] 国立教育政策研究所. (2023). 幼児期からの育ち学びのプロセスの質に関する研究. 国立教育政策研究所.

[ii] Heckman.J.James. (2015). 幼児教育の経済学. 東洋経済新報社.

[iii] 藤澤啓子、中室牧子. (2017). 保育の「質」は子どもの発達に影響するのか. 独立行政法人経済産業研究所.

[iv] 杉山喜美恵. (2022). 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「絵本」の位置づけ. 東海学院大学短期大学部紀要.

[v] 高橋登、徳渕美紀. (1994). 集団での絵本のよみきかせ場面における子ども達の相互作用について. 日本教育心理学会総会発表論文集.

[vi] 教育新聞. (2023 年 2 月 15 日). 中室牧子教授に聞く 教育経済学が注目する「体験」の効果.

[vii] 仲本美央. (2015). 絵本を読みあう活動のための保育者研修プログラムの開発. ミネルヴァ書房.